

IZUMI JUNIOR COLLEGE

# 宗教部 便り

EX HOC CHRISTI FONTE PURITAS  
ET CARITAS JUVENTUTIS SURGANT

第 43 号

2011年3月10日

発行兼 宗教委員会  
編集  
発行所・和泉短期大学

神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1  
TEL 042 (754) 1133 (代表)  
FAX 042 (753) 2087  
URL <http://www.izumi-c.ac.jp>

## 与えられた恵みによって



理事長 深町 正信

現代は世界的先行き不安の状況の中で、建築の安全、食の安全、金融の安定、子供の生命の安全、環境の安全等が大きな問題となっております。他方、新しい産業、技術を育てようという事で、国と民間において様々な規制緩和が行われています。国と国との貿易振興のために、自由貿易協定が二国間、或いは、多国間でも論議されています。要するに、新しい、活力ある日本の国造りが大いに叫ばれています。

聖書は、この地球が神の創造の御業であることをしばしば語っています。天地万物を創造された主なる神は、人間を創造して、「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」(創世記第一章二八節)と命じられています。この世界は、私達、人間にその管理を委ねられ、託された「約束の地」であるのです。しかし、世界の現実は今、果たして神の望まれる通りの生命に満ちあふれる、「乳と蜜の流れる」喜ばしいものと果たして言えるのでしょうか? 歴史を通じて、現在、私達は

働いて得た豊かさが、真に生きる喜びを与えてくれていたとは必ずしも言えないことを残念に思います。たとえば、この地球の資源が生みだした多くの豊かな富を、どれだけ貧しい国のために用いて、自ら貧しくなることが出来ているかを検証してみると、そのように簡単には出来ていないのが現実であります。

「わたしたちは、与えられた恵みによつて、それぞれ異なった賜物を持っていますから、教える人は教えに、勧める人は勧めに精を出さない。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。」(ローマの信徒への手紙第二章六節以下)とあります。

この世界とそこにある多くの問題をそのまま放置するのではなく、その中で、まことの良い世界を夢見て、現実を探求し、それを開発しながら、それぞれに夢のある生き方を見つけて、それが最も大切であります。皆さんはそれぞれ世界中のすべての人の幸福と、神の栄光を現すために、尊い一生をささげ尽くした主イエスキリストに支えられながら、正しく、愛をもつて、平和な世界を築くために努力してくださいようにと祈っています。

### チャペルアワー献金及びクリスマス献金の報告

〈収入〉		
チャペルアワー献金		135,000円
クリスマス献金		62,000円
〈支出〉		
特定非営利活動法人		
チャイルド・ファンド・ジャパン	96,000円	
東光学園 他20件	101,000円	
感謝して報告申し上げます。		

## 『ほほえみの力』

(ヨブ記二十九章二十四〜二十五)

チャペレン・学長

伊藤 忠彦



「彼らが希望を失った時にも、わたしは彼らに向かつて

ほほえんだ」

(二十四節・口語訳)

しかし、そのヨブが、希望を失い意気消沈する人々に向かつて、微笑みの顔を向けた、心配し、おびえる民の眼差しにヨブは微笑みをもって応えたと言うのです。

そのヨブの微笑みに「彼らはわたしの顔を除くことができなかつた。」(二十五節)とヨブは言っています。

絶望し、不平や愚痴をこぼしていた民が、ヨブの微笑みに「大丈夫」何とかなるのだ、そう感じている様子に、ヨブはひと安心したというのです。

民の長であるヨブが、窮地にあっていらだち、顔を引きつらせていたらどうでしょう。ヨブの下にある民の絶望の間は、いっそう深く、また大きくなったに違いありません。

教師をしている私たち、また保育者を目指す者、また子ども親である者も、このヨブのようでなければならぬのだと教えられます。

ヨブは希望を失った時にも、その配下にある者たちにむかつて微笑んだのです。

自分を支え、護る者の、不安な顔、不機嫌な眼差し、それが、どんなに私たちが不安にするか、また、微笑みと共に向けられる眼差しに、私たちがどんなに安堵し、励まされるかを、想像しなければなりません。



2010年度チャペルアワー等一覧

月日	タイトル	説教・奨励者(敬称略)	月日	タイトル	説教・奨励者(敬称略)
4/1	「人にしてもらいたいことを人にしなさい」	伊藤忠彦 ※2年始業礼拝	7/26	「大切なものは目には見えない」	櫻井奈津子
12	「復活祭の喜び」	辻川 篤	9/7	「置かれた場所で花を咲かせろ」一根を持つことー	伊藤忠彦 ※専攻科始業礼拝
19	「チャペルアワーに来よう」	横川剛毅	24	「置かれた場所で花を咲かせろ」一根を持つことー	伊藤忠彦 ※1年始業礼拝
23	「主に望みをおくる人」	犬塚 修 ※1年学外研修会開会礼拝	10/7	「置かれた場所で花を咲かせろ」一根を持つことー	伊藤忠彦 ※2年始業礼拝
24	「人にしてもらいたいことを人にしなさい」	伊藤忠彦 ※1年学外研修会開会礼拝	11	「出会う人は選べない」	横川剛毅
26	「愛の泉限りなく」一スクールモットー「愛と奉仕」ー	木村治男 ※創立記念礼拝	18	「つながつて、つなげてもらって、つないで生きる」	井狩芳子
5/10	「1タレントの才能でも」	伊藤忠彦	11/1	「楽しむために人生はあるのか」	伊藤忠彦
17	「神を信じ、人に仕える」	横川剛毅	8	「わたしのもとに来なさい」	深町正信 ※百天者記念礼拝
24	「子どもを招いて下さるキリスト」	伊藤忠彦	15	「あなたも知っている聖書の言葉」	片山知子
31	「私たちの2人の里子」	山本美貴子	22	「みんなのチャペル①」	宗教委員会
6/7	「思い悩みを神に任せて」	須田 拓	29	「クリスマスツリー点火祭」	宗教委員会 ※アドベント礼拝①
14	「タラントンのたとえ話から」	佐藤守男	12/6	「わたしたちの陰にあるもの」	大ニ島義孝 ※アドベント礼拝②
21	「寄り添う」とは何か」	鈴木敏彦	13	「サンタクロース、そして羊飼いと博士ーあなたの一番をささげるー」	松浦浩樹 ※アドベント礼拝③
28	「自分で自分を裁くことすらできません」	伊藤忠彦			
7/5	「一匹の迷った羊」	武石宣子	20	「宝の箱を開けるクリスマス」	潮田健治 ※クリスマス礼拝
12	「仲間を赦さなかった者」	伊藤忠彦	1/17	「与えられた役を担う」	伊藤忠彦
19	「弟子たちの恐れ」	横山 望	1/24	「人にしてもらいたいことを人にする」	横川剛毅

十 チャペルアワー報告 十

●横川 剛毅

私たちの学校のキリスト教活動の柱が、チャペルアワーを中心とした礼拝です。入学式や卒業証書授与式も礼拝形式で行われます。年間計画に基づいて、始業礼拝、イースター礼拝、百天者記念礼拝、クリスマスツリー点火祭、クリスマス礼拝、卒業感謝礼拝といった特別の礼拝を捧げます。

学内礼拝であるチャペルアワーは、学内外の講師や奏楽者による奉仕によって、基本的には自由参加の形式で捧げられています。多くの学

生さんや教職員の皆さんが、心を静やかにして聖書のみことばを味わい、祈りと讃美をもって神様に心を開ける豊かな時間になっていくように、今年度も宗教委員会では準備を進めてきました。

神様のお導きに心から感謝します。また、多くの方々からいただくご理解とご協力あつてのチャペルアワーだと再認識した一年でもありました。

ステンドグラスで彩られたクラークホールで聴いたみことばが、厳かなパイプオルガンの音色が、ともに祈り讃美した思い出が、和泉で学んだ人の心に残るようにと願っています。

キリスト教活動 ★トピックス

●宗教委員会

「学生さんにもキリスト教活動に携わってほしい」という願いから、2010年4月、学生の委員である「チャペル・学外研修委員会」が設けられました。

大きな役割の一つが、チャペルアワー基本礼拝での奉仕です。それ以前は、基本的には教職員がすべての実務を担当して毎回のチャペルアワーでのホール人口での受付や、奉献(献金係)を委員である学生に担当してもらいました。委員からは、「受付でみんなに元氣よく挨拶するのがとても気持ちよく楽しかった」、「献金係をやって緊張や戸惑いがあつたけど、やれてとてもよかったです」など嬉しい声が寄せられました。また委員は、クリスマス関連礼拝等の準備や進行にも携わりました。クリスマスツリー点火祭に向けて、係に分かれてそれぞれの準備を担当してもらいました。当日、事前準備会場整理、司会進行、礼拝後の企画片付けなど業務全般で活躍したのは委員の学生です。さらにアドベント礼拝やクリスマス礼拝でも学生の役割が増えました。委員からは、「いろいろな人が協力して学生中心にできてよかった」などの声が寄せられました。その一方で「連絡や連携がスムーズでなかった」という指摘もあり、次年度に向けた課題です。

学生主体のキリスト教活動へと、じわりと一歩を踏み出したと思つています。宗教委員会では、この一年の働きや経験が引き継がれ、学生の皆さんがキリスト教活動に親しみを感ぜられるようにと期待しています。委員の皆さんに感謝!

戸聖歌隊活動報告戸

●二年 横浜杏奈(ツプラン)

10年度は一年生5名、二年生10名で顧問の山本先生と共に活動をしてきました。チャペルアワーをはじめ、クリスマスツリー点火祭や子育てサロンはつびいでのクリスマスコンサートで讃美しました。和泉祭では聖歌隊の活動を掲示して、多くの方に伝えることが出来ました。

練習は毎週水曜日の昼休みに行い、和泉祭の前にはパート毎の練習も行いました。聖歌隊のメンバーと共に歌つた時間は、長いようであつたという間に過ぎてしまいましたが、とても充実してました。男子メンバーが増えたことで、さらに綺麗なハーモニーをつくれたことが何よりも嬉しかったのです。最後に、学生聖歌隊の活動を支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。



ハンドベル・クワイアだより

●二年 蛸名量子

ハンドベル・クワイアは4人で活動してきました。少人数ながら皆で協力し合い励んできました。この一年を振り返りますと、礼拝での奉仕活動をはじめ、和泉祭でのOBを含めた23名の方々と



ツリー点火祭、はつびいでのクリスマスコンサートなど演奏する機会が沢山ありました。

練習は、毎週水曜日の放課後や空き時間を利用しました。練習時間が十分とはいえませんが、田中先生のご指導により、数多くの曲を全員で完成しました。学校関係の方々、先生方にも支えられ、少しずつ成長することが出来ました。

二年間のハンドベル・クワイアの奉仕活動を通して、様々な方達との出会いがありました。この経験を糧に今後活かしていきたいと思つています。

ICF活動報告

●介護福祉専攻科 矢島明子



ICFの活動は、学生、教職員の祈り合う、豊かな交わりの場として今年度も守られ、継続する事ができました。10年度は専攻科1名、二年生2名、一年生2名で、先生と共に活動をしてきました。毎週火曜日の昼休み、宗教センターでの祈り会を中心に、毎月一回5限の時間に聖書研究会を行いました。

更に初めての試みとして和泉祭でのPRがあります。活動を広く知って頂く為、活動紹介の作成・掲示、みことば入り葉の作成・配布を行いました。メンバー全員が集うのは難しかったですが、先生の協力もあり、互いに励まし、祈り合い進めていくことができました。今後祈りと励ましの場、人と人、神様と豊かな交わりの場としてICFが用いられるよう願っています。